

## 道路事業の再評価概要書

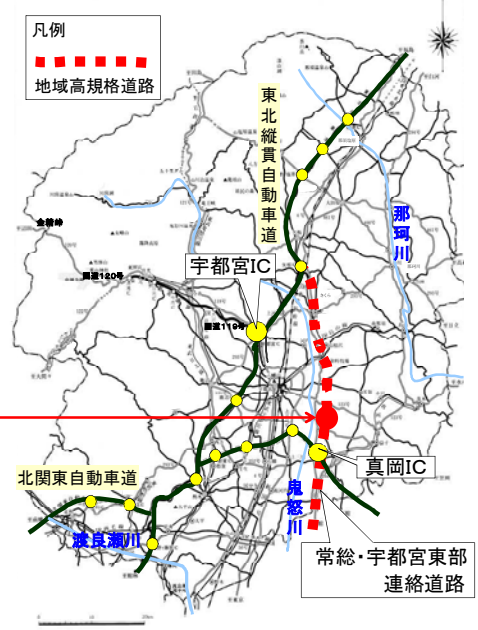
( ) は、事前評価時

道 路 事 業 の 再 評 価 概 要 書			番 号	117
			事業主体	栃 木 県
事業名	快適な道づくり事業		事業所管課	県土整備部 道路整備課
路線・河川名	一般国道408号		事業箇所名	真岡市・宇都宮市 真岡宇都宮バイパス
事業区間	真岡市下籠谷～宇都宮市氷室町		事業延長	5,200m
H15年度事業化	H3年度都市計画決定 (H12年度変更)		H15年度用地着手	H16年度工事着手
事業期間	(H22) H15年度～H25年度		事業進捗状況	基準年次：【平成23年度末時点】 進捗率
[うち用地補償費] 全体事業費	[60.0(55.0)億円] 154.0(170.0)億円			[うち用地補償費] [60.0億円] [100%] 既投資事業費 136.6億円 89%
事業概要				
<p>真岡宇都宮バイパスは、県の総合計画に掲げるスカイコリドールの一部として広域的な交通を担う道路であり、常磐自動車道谷和原ICと東北自動車道矢板ICを結ぶ約100kmの地域高規格道路「常総・宇都宮東部連絡道路」のうち一般国道121号と一般国道123号との間に位置する区間である。また、本道路は整備済みの真岡バイパス、真岡北バイパスと一体となって、北関東自動車道真岡インターチェンジや一般国道4号へのアクセス強化を図るとともに、清原工業団地を中心に工業団地を支援し、鬼怒川左岸地域における産業活動を支える道路である。</p> <p>しかしながら、現道は2車線であり、沿線に多くの工業団地が立地し、各所において慢性的な渋滞が発生している。</p> <p>このため、真岡バイパス及び真岡北バイパスに引き続き整備することにより交通の円滑化を図ることを目的としたバイパス事業である。</p>				
事業を巡る社会経済情勢等の変化				
特になし				
事業の投資効果				
1 費用対効果分析結果		【総便益 (B)】	【総費用 (C)】	
(1) 事業全体 B/C= 3.4		571.2億円	167.4億円	
(2) 残事業 B/C=29.8		571.2億円	19.2億円	
2 事業の整備効果等				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通渋滞緩和による交通の円滑化</li> <li>・北関東自動車道真岡ICや一般国道4号へのアクセス強化。</li> <li>・鬼怒川左岸地域の産業振興。</li> </ul>				
事業の進捗状況等				
1 事業の進捗状況				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成22年度に全線の用地取得を完了した。</li> <li>・全線の工事を推進している。</li> </ul>				
2 今後の事業進捗の見込み				
<p>今後は工事を推進し、平成24年度を目標に本線を全線供用し、平成25年度に事業完了を図る。</p>				
コスト縮減等				
1 コスト縮減方策				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・再生骨材、再生アスファルト合材を積極活用しコストを縮減</li> </ul>				
2 代替案立案等の可能性				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・用地取得は完了しており、代替案の立案は困難である。</li> </ul>				
事業の対応方針(案)		現計画で事業を継続する。		

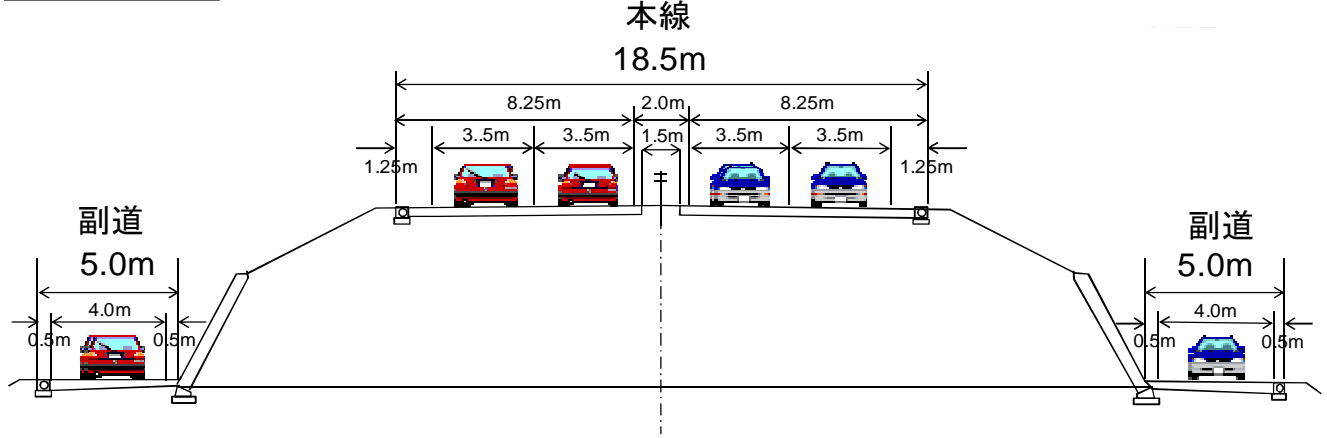
# 事業箇所(位置図、概要図)

## 位置図

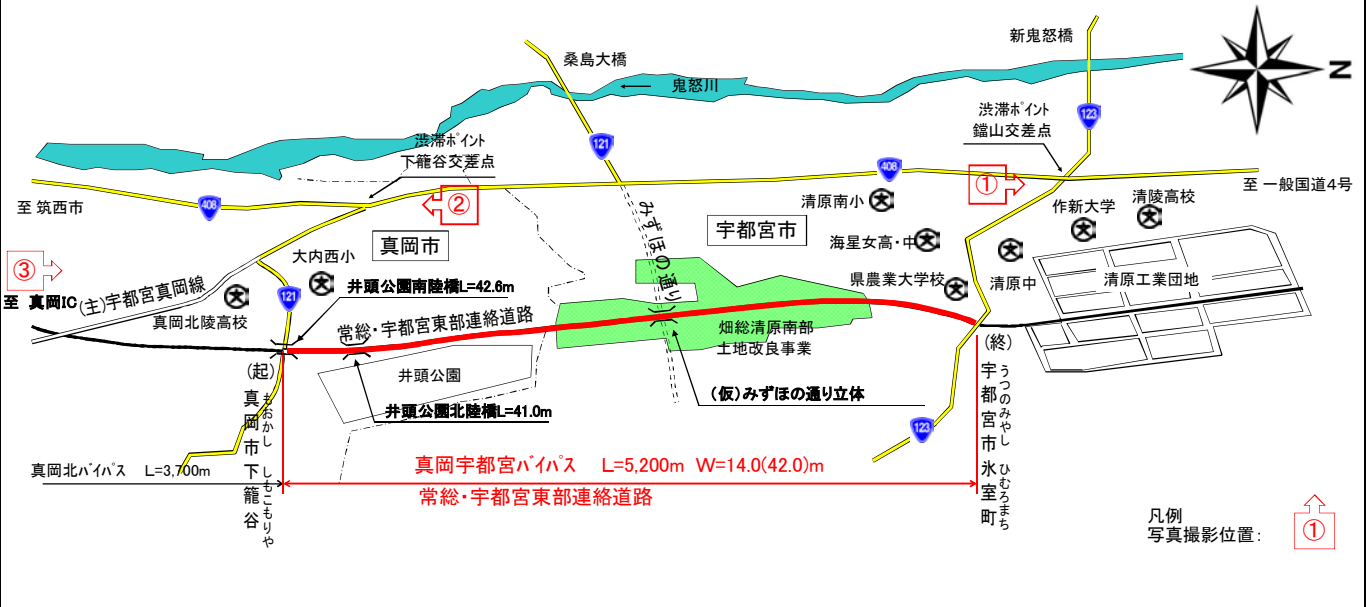
一般国道408号  
真岡宇都宮バイパス



## 標準横断面図



## 概要図





①

渋滞の発生状況【鑑山交差点】



②

渋滞の発生状況【下籠谷交差点】



③

供用済の真岡バイパス【真岡IC】